

事務事業名		碁石海岸観光案内所開設事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	23 豊かな地域資源を活用した観光の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 観光客の誘致と観光宣伝の充実					01	07	01	04	07
根拠法令											
所属	部課名	商工港湾部商業観光課									
	課長名	鈴木 弘									
	係名	観光物産係	電話	27-3111							
	担当者	松川直史	内線	116							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
大船渡市観光物産協会に委託し、碁石海岸内に観光案内所を開設して、案内者(上半期2名、下半期1名)を常駐させ、碁石海岸の現地案内や宿泊施設の紹介、市の観光案内、観光客の動態調査等を行う事業。 主な業務は、①仕様書の作成、②観光物産協会との委託契約締結、③実績報告書の受取、履行確認、④委託費の支払い。 事業費は、委託先(観光物産協会)への委託料として支出されていた。					総 投 入 量 (千円)	事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計(A)	0		
人 件 費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)	0									
	トータルコスト(A)+(B)	0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 大船渡市観光物産協会に委託し、碁石海岸内に観光案内所を開設して、案内者(上半期2名、下半期1名)を常駐させ、碁石海岸の現地案内や宿泊施設の紹介、市の観光案内、観光客の動態調査等を行った。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 平成26年度、環境省による碁石海岸復興国立公園地内へのインフォメーションセンターの開設に伴い、観光案内業務等はセンター内で行うことになったため、観光案内所開設は行わない。 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 直接対象: 大船渡市観光物産協会(案内者) 間接対象: 碁石海岸を訪れる観光客 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) (市観光物産協会に)碁石海岸を訪れた観光客に碁石海岸の現地案内や宿泊施設の紹介、市の観光案内等、きめ細かなサービスを提供してもらう。 (碁石海岸を訪れる観光客に)観光案内所を利用してもらう。 ④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) ①大船渡市を訪れる ②魅力がPRされ、認知度が高まる。					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
					名称				単位	
					ア	延べ開設日数	日			
イ										
ウ										
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					名称				単位	
					カ	大船渡市観光物産協会職員数(案内者)	人			
					キ	碁石海岸観光客数	人			
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					名称				単位	
					サ	案内件数	件			
					シ					
					ス					
(2) 総事業費・指標等の推移										
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	0	1,980	1,999	0	0	0	0
	人件費	事業費計(A)	千円	0	1,980	1,999	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	0	1	1	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間	0	8	8	0	0	0	0
		人件費計(B)	千円	0	32	32	0	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,012	2,031	0	0	0	0
	⑤活動指標	ア	日		387	381	0	0	0	0
		イ								
		ウ								
⑥対象指標	カ	人	0	2	2	0	0	0	0	
	キ	人	0	635,566	533,412	0	0	0	0	
	ク									
⑦成果指標	サ	件	0	660	1,597	0	0	0	0	
	シ									
	ス									

事務事業ID	0445	事務事業名	碓氷海岸観光案内所開設事業
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
碓氷海岸を訪れた観光客に碓氷海岸の現地案内や宿泊施設の紹介、市の観光案内等、きめ細かなサービスを提供するため、平成13年度から案内所を開設した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
平成25年度碓氷海岸集団施設地区復旧再整備事業として、環境省によりインフォメーションセンターの整備が進められた。当該センターの開設は平成26年4月からで、当該施設において一般社団法人大船渡市観光物産協会職員が常駐し観光案内等を行うため、平成26年度以降、観光案内所は開設しない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
夜間の民宿・観光案内の窓口の設置や観光ガイド受付をしてほしいとの意見が観光客等から寄せられた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 結びついている ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 妥当である ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 適切である ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 影響有 ⇒【その内容】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから影響は無い。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 年間1人・8時間の業務時間で行っており、これ以上の削減余地はない。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。

事務事業ID	0445	事務事業名	碁石海岸観光案内所開設事業
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 情報を求める観光客に対する情報サービスの提供は不可欠であるが、インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) インフォメーションセンター内で観光案内業務を行うことから、これまでの案内所開設が不要となる。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 商業観光課長	(氏 名) 鈴木 弘
-------	-------------------------------	---------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☒ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☒ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 ・適切な事務執行がなされている。 ・平成26年4月に、環境省が整備を進めていた碁石海岸インフォメーションセンターが完成したので、26年度からはセンター内で観光案内業務を行うこととなった。																				
(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☒ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成26年度から、市が(一社)大船渡市観光物産協会に委託している観光振興支援員事業の中に、碁石海岸インフォメーションセンター内での観光案内業務も含んでいる。																				
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 政策推進会議等での指摘事項
